

天性・誇りがあるのか！

話はガラリと変わるが、女流監督ヴィルジニー・テヴネの仏映画「ガーターベルトの夜」の試写を見せてもらったら、街頭でアルバイトの女性が全く真剣に通行人にアンケートを取っている場面で、日本版字幕は“性”をペロペロちゃん、“生理”をグリグリちゃんなどと勝手に悪ふざけの訳。また“密教”が出てくると“中沢新一的”などともとの台詞になり名前が出てくる。見ると字幕監修・田中康夫。“クリスタル”の旦那、他人様の映画を勝手にねじ曲げ改悪する権利が君にあるのか。文士（と言えるかどうか）が映画に介入するとろくなことがない。思いあがるんじゃないぞ。

